

教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 歴史文化学科

資格： 講師

氏名： 本井 優太郎

研究分野		研究内容のキーワード
日本近現代史		戦時体制、昭和史、平成史、戦後史、地域史、戦災復興、生活、社会問題、住民運動、市町村合併、都市計画、オーラル・ヒストリー
学位		最終学歴
博士（文学）		大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 修了
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 歴史文化フィールドワークⅢ	2025年4月～現在	阪神およびその周辺地域の史跡・遺構・街並みの実地踏査、博物館等の施設見学を軸に据え、日本近現代史を体験的に学ぶとともに、フィールドワークの基礎を修得する。戦争に関わる史跡・遺構・展示・史料の踏査と実見を通じて、戦争が地域に与えた影響を具体的に理解する。
2. 日本近現代史史料を読むⅠ	2025年4月～現在	日本近現代の文献史料の講読をおこない、歴史学研究に必要な史料の読解・分析技術を修得する。とくに、日本近現代史の基礎的史料である新聞論説と『原敬日記』をとりあげ、読み下しと現代語訳、記事の登場人物や背景事情の分析をおこなう。
3. 初期演習	2025年4月～現在	大学教育への導入として、本学が定める指針、高校と大学の学びの違い、自立と自律、歴史文化学科のポリシーと学びの特徴などを学ぶ。座学に加えてグループワークや室外での実践も取り入れ、大学生にふさわしい主体性や自律性、知的探求心の修得をめざす。
4. 日本の画像文化論	2024年10月～現在	絵巻物・地図・屏風絵といった画像資料から日本史の特質を把握する。そこに描かれている／描かれていないオブジェクトや、その描かれ方から、当時の人びとの生活や価値観、社会・文化の特質を読み解く。
5. 日本思想史	2024年10月～現在	日本の各時代における主要な思想を学ぶ。政治・経済・社会・文化に関する諸思想の概要と特質を解説するとともに、それらの思想と各時代の政治体制や社会関係との相互関連を指摘することにより、日本史をより立体的に理解する。通常の講義に加えて、テキストの読解や調べ学習などの実践も適宜取り入れる。
6. 地域社会論	2024年4月～現在	おもに近現代の阪神およびその周辺地域を対象に、戦争・基地問題・公害問題といった具体的なテーマを事例として、地域社会の歴史的特特質を、政治・社会・経済・文化の各側面から立体的に把握する。また、大学周辺の巡検や文献を用いた調べ学習、プレゼンテーションなどの実践もおこなう。
2 作成した教科書、教材		
1. 『アニメで読む世界史2』	2015年10月	ディズニー、スタジオジブリのアニメ作品の考察を通じて世界史の特徴を解説した一般教養書。本井が執筆を担当した『平成狸合戦ぽんぽこ』に関する論説を、高度成長期のニュータウン開発と住民活動の事例として「地域社会論」で活用している。
2. 『大阪狭山市史 第四巻 史料編近現代』	2012年3月	近現代の大阪狭山市に関する主要史料を集成した自治体史。このうち本井が執筆・編集を担当したアジア・太平洋戦争期の地域史料と、高度成長期の狭山ニュータウン開発と住民活動に関わる地域史料を「地域社会論」での事例紹介時に活用している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 「新修摂津市史第三巻刊行記念講演会」での講演	2024年12月	摂津市が主催した講演会において、『新修摂津市史第三巻 現代・民俗』（2024年12月刊行）の執筆箇所を中心に戦後摂津の歴史と特徴を概観した。
2. 「れきはく講演会」における講演	2024年11月	兵庫県立歴史博物館が主催する講演会において、昭和戦時期および戦後の明石市の動向をテーマとする講演

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 明石医療センター附属看護専門学校での出前講座	2024年7月	を実施した。
4. 「明石しごせんロマン塾」における講座	2024年3月	同校が主催する講座に出向し、明石の自然環境と歴史、医療・看護の視点からみた地域の特徴について解説した。
5. 「明石しごせんロマン塾」における講座	2024年2月	市民の自主団体「明石しごせんロマン塾」が主催する講座において、昭和戦後期の明石地域について解説した。
6. 「あかねカレッジ 2023年度あかし地域学科」での出前講座	2023年9月	市民の自主団体「明石しごせんロマン塾」が主催する講座において、昭和戦時期の明石地域について解説した。
7. 「あかねカレッジ 2022年度あかし地域学科」での出前講座	2022年9月	一般財団法人明石コミュニティ創造協会が主催する講座において、明石の近現代史とその特徴を解説した。
8. 「令和元年度歴史文化セミナー 簡修館」での講演	2019年9月	一般財団法人明石コミュニティ創造協会が主催する講座において、明石の近現代史とその特徴を解説した。
9. 「あかし楽歴史講座」での講演	2019年8月	大阪狭山市教育委員会が主催するセミナーにおいて、戦後の狭山ニュータウン開発を題材とした講演を実施した。
10. 「シンポジウム 加藤教育から学び、そして、未来に つながよう魂を」でのコメンテーター	2016年9月	「複合型交流拠点・ウィズあかし」が主催する講座において、戦後明石市の市町村合併の経過と特徴に関する講演を実施した。
4 その他		「地域自主組織 日登の郷」（島根県雲南市）が主催するシンポジウムにおいて、歴史学の視点からみた日登教育の意義についてコメントをおこなった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 高等学校教諭一種免許状（公民）	2007年3月	
2. 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	2007年3月	
3. 中学校教諭一種免許状（社会）	2007年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 島根大学における山陰地域研究に係る調査・研究業務（法文学部山陰研究センター） 山陰研究共同プロジェクト／「渡部寛一郎文書」および「若槻礼次郎文書」の研究 ※科学研究費助成事業（科研費）との共同プロジェクト	2016年6月～現在	近代漢詩が形成する山陰地域の文化教養環境と政治の相互関連を実証的に解明する共同研究プロジェクト（研究代表者：要木純一）。本井は地方都市政治史の視点からみた松江市の位置の解明を担当。
2. 兵庫県明石市における自治体史編纂に係る調査・研究・編集・企画業務	2014年9月～2024年3月	市史編纂事業の担当職員として、i）明石地域の歴史資料の調査、ii）紀要『明石の歴史』の編集・執筆、iii）新市史刊行計画の作成等の業務を遂行した。
3. 大阪府池田市における自治体史編纂に係る調査・研究・編集業務	2012年4月～2014年8月	市史編纂事業の担当職員として、『池田市史 史料編⑩ 近代史資料』（池田市、2014年9月刊行）の編集業務を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 『新修摂津市史第三巻 現代・民俗』	共	2024年12月	摂津市	1945～2010年代半ばまでの大阪府摂津市の歴史をまとめた自治体史。本井は上記全期間における行政・政治・農業・生活・社会教育の各分野を執筆した。
2. 『池田市史史料編⑩ 現代史資料』	共	2016年9月	池田市	1945～2010年代初頭の大阪府池田市に関する史料を集成した自治体史。本井は上記全期間における伊丹航空基地（のち大阪国際空港）に関する史料の選定と解題執筆をおこなった。
3. 『アニメで読む世界史2』	共	2015年10月	山川出版社	ディズニーやスタジオジブリの作品の考察を通じて世界史の特質を解説する一般教養書。本井は『平成狸合戦ぽんぽこ』を素材として

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4.『大阪狭山市史第四巻 史料編近現代』	共	2012年3月	大阪狭山市	高度成長期の多摩ニュータウン開発の歴史を解説した。明治～昭和期の大阪府大阪狭山市に関する史料を集成した自治体史。本井は明治前期の村の状況、明治中後期の鉄道敷設、アジア・太平洋戦争期の住民生活、新興住宅地における住民活動に関する史料の選定と解説執筆をおこなった。
2 学位論文				
1.戦後社会運動史像の再検討ー1950年代／地域社会運動論ー	単	2016年12月	大阪大学	地域の社会運動を事例として、1950年代の社会運動史研究の主流であった「保革対立」の枠組みを再考した。その際の視角として「生活」を設定し、多様な事例分析を通じて「生活」が当該期社会運動の争点となっていたことや、それが高度成長期の住民運動へと継承されていくことを実証した。
2.戦後における地域変革と教育実践ー島根県大原郡日登村、「日登教育」を事例としてー	単	2009年3月	島根大学	島根県大原郡日登村の新制中学校の教員と生徒が主体となって実践された生活改善運動の分析を通じて、1950年代における村の生活風俗や社会秩序の変容を実証した。その際、当時の生徒や教員からの聞き取り調査を丹念に実施して積極的に活用し、オール・ヒストリーの可能性を追究した。
3 学術論文				
1.戦時期大都市近郊地域における軍需産業の進出とその特質ー兵庫県明石市とその周辺地域を事例にー	単	2024年6月	『部落問題研究』249号、公益社団法人部落問題研究所	兵庫県明石市域を主対象として、戦時期における軍需産業進出の具体的な経過とそれが地域の住民生活や都市構想に与えた影響を分析した。市域中・西部を中心に神戸資本による大規模軍需施設が進出したこと、それにともない新旧住民間や農工業間の相克が生じたこと、今日の明石市域の形成の前提となる市町村合併の機運が生じたことなどを解明した。
2.戦時・戦後における大都市近郊地域の歴史的変容と「生活課題」：兵庫県明石市の分析	単	2023年9月	『部落問題研究』246号、公益社団法人部落問題研究所	科学研究費助成事業「戦時・戦後における大都市近郊地域の歴史的変容と「生活課題」ー兵庫県明石市の分析」（若手研究／研究代表者：本井優太郎）の趣旨と進捗状況について概説した。
3.北原泰作文書にみる地域の部落解放運動ー部落解放全国委員会和歌山県連合会「再建大会議案書」ー	単	2022年3月	『部落問題研究』240号、公益社団法人部落問題研究所	戦前・戦後の水平運動家・部落解放運動家である北原泰作が遺した文書を分析した。まず同文書の特徴として、戦前から1970年代までの中央の運動資料に加え各地の資料も豊富に含まれている事を解説した。また、1953年に部落解放全国委員会和歌山県連合会が作成した「再建大会議案書」を精読し、当該期の和歌山県連が自らの活動を平和運動の一環と位置づけていた事等を解明した。以上をふまえて、同文書が部落問題研究のみならず、社会運動史研究等にも有用な史料群である事を指摘した。
4.書評 『口吉川の歴史』（新三木市史地域編6）	単	2021年12月	『LINK 地域・大学・文化』神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
5.都市の戦災復興とその諸相ー明石市における戦災復興事業の展開をめぐるー	単	2021年3月	『明石の歴史』4号、明石市	明石市における戦災復興事業の展開過程と、そこにおける行政・議会・住民の動向を分析した。事業発足当初の明石市では、計画区域内に展開していた闇市「自由市場」の処遇が懸案事項となっていた事、1949年2月に発生した火災による「自由市場」の焼失後に事業が飛躍的に進展した事を解明した。また、生活空間の再建を求める土地所有者や市街地住民と、公共事業として区画整理等を進めようとする行政・市議会との間には、「復興」の認識にズレがあり、事業の本格化にともないそうしたズレが顕在化していった事を指摘した。
6.書評 鬼嶋淳著『戦後日本の地域形成と社会運動 生活・医療・政治』	単	2020年9月	『日本史研究』697号、日本史研究会	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
7.戦時体制から戦災復興へー明石市における戦災復興事業の発足をめぐってー	単	2020年3月	『明石の歴史』3号、明石市	戦時～戦後の明石市における都市計画の展開と特質を分析した。まず、戦時期に関しては、1937年に成立した防空法の規定により作成された「防空計画」に基づく都市防空体制の構築が進められていた事、周辺村の編入（市町村合併）もこうした都市防空計画の一環に位置づけられていた事を解明した。そして敗戦後の戦災復興事業の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
8. LINKを読む 『LINK』を読んだ一感想、論評、活動報告、独白	単	2018年12月	『LINK 地域・大学・文化』10号、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター	展開過程にあつては、まず住民の自助努力による復旧・復興作業が先行して起こり、それを行政・議会が追走して政策化する形で本格化していったと結論した。 『LINK』9号の特集「地域歴史文化をめぐるく場」一つなかりを生み出す環境づくり」の内容を紹介し、成果と問題点を指摘した。
9. 新刊紹介 早川紀代・江刺昭子編『原爆と原発、その先—女性たちの非核の実践と思想』	単	2018年1月	『日本史研究』665号、日本史研究会	左記の著書について内容を紹介・解説した。
10. 一九五〇年代における市町村合併の展開—兵庫県明石市とその周辺自治体を事例に—	単	2016年12月	『ヒストリア』259号、大阪歴史学会	戦前から1950年代にかけて、兵庫県明石市と神戸市をはじめとする周辺自治体との間で展開された合併問題の経過と特質を分析した。明石市や神戸市では戦前・戦時から市域の拡張が進められており、その延長線上に戦後の合併問題が位置づけられる事、合併それじたいは行政・議会の主導により進められるが、住民も運動主体化してそれぞれの立場から賛否を示しており、それが議会での議論や行政の動向に影響を与えていた事等を指摘した。
11. 新刊紹介 櫻澤誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』	単	2016年10月	『新しい歴史学のために』289号、京都民科歴史部会	左記の著書について内容を紹介・解説した。
12. 新刊紹介 小澤卓也・田中聡・水野博子編著『教養のための現代史入門』	単	2015年12月	『ヒストリア』253号、大阪歴史学会	左記の著書について内容を紹介・解説した。
13. 戦後地域社会における基地問題の生成と展開—伊丹航空基地とその周辺地域を事例に—	単	2015年12月	『待兼山論叢 史学篇』49号、大阪大学大学院文学研究科	伊丹航空基地（現大阪国際空港）を事例として、敗戦～1960年代初頭における基地問題の諸相と、それらをめぐる住民の動向を分析した。まず基地（空港）周辺地域では、基地拡張に伴う立退問題、売買春等の風紀問題、戦闘機・ジェット機による騒音問題など多様な基地問題が生成していた事を解明した。またこれらの問題に際して、周辺住民は自己の生活の擁護・改善という立場から賛否を表明していた事、大阪商工会議所を中心とする阪神財界の活動が拡張問題の帰趨に影響を与えた事を指摘した。
14. 書評 北河賢三著『戦後史のなかの生活記録運動 東北農村の青年・女性たち』	単	2015年10月	『日本史研究』638号、日本史研究会	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
15. 文献紹介 丸浜江里子『原水禁署名運動の誕生—東京・杉並の住民パワーと水脈』	単	2012年12月	『同時代史研究』5号、同時代史学会	左記の著書について内容を紹介・解説した
16. 大阪府・市公文書館問題の経過と現状	単	2011年8月	『ヒストリア』227号、大阪歴史学会	大阪府公文書館および大阪市公文書館の公文書管理の現状、府市の今後の文書管理構想の問題、大阪歴史学会はじめ歴史学界の対応のあり方について論じた。
17. 戦後地域社会における教育実践と生活改善—島根県大原郡日登村を事例に—	単	2011年7月	『日本史研究』587号、日本史研究会	敗戦～1950年代の島根県大原郡日登村で展開された教育実践を素材として、当該期農山村における生活改善の具体相を検討した。同村では新制日登中学校の開校（1947年4月）から60年代初頭にかけて、教員・教え子が中心となり、産業教育・生活綴方・栄養改善・結婚改善等の取り組みが展開されていた事を解明した。そしてこれらの実践により、日登村の生活様式や、その背景にあった家族秩序・ジェンダー秩序に一定の変化が生じた事を実証した。
18. 戦後部落解放運動における〔共闘〕論の	単	2011年6月	『部落問題研究』197号、公益社団法人	1950年代の部落解放運動における、他団体との共同闘争（共闘）の形成過程とその理論的特質について、中央と地方（和歌山県）の双

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
形成			人部落問題研究所	方を取りあげて分析した。その結果、1950年代前半には、中央と和歌山の両方において、同和予算の獲得＝再軍備予算の削減というロジック、すなわち団体独自の要求を、当該期社会運動の普遍的な要求（平和と民主主義の擁護）の文脈に位置づけた共闘理論が形成されていた事を解明した。
19. 北原泰作文書(その4)八幡事件関係史料(愛媛県宇和島市)	単	2010年11月	『部落問題研究』194号、公益社団法人部落問題研究所	北原泰作文書のうち、1948年に愛媛県宇和島市で部落差別に端を発する殺傷事件（八幡事件）に関する一連の報告書類について史料翻刻を行うとともに、敗戦直後の地域における差別事件、中央組織と地方組織の関係について考察した解説を執筆した。
20. 北原泰作文書(その3)井元麟之「証言書」・山本政夫「証言書」	単	2010年4月	『部落問題研究』192号、公益社団法人部落問題研究所	北原泰作文書のうち、水平運動家・井元麟之と融和運動家・山本政夫が、部落解放全国委員会委員長・参議院議員の松本治一郎の公職追放指定に際して作成した「証言書」の史料翻刻を行うとともに、戦時・戦後の部落解放運動と公職追放との関連について考察した解説を執筆した。
21. 北原泰作文書(その2)昭和十七年「日記」	共	2009年12月	『部落問題研究』191号、公益社団法人部落問題研究所	北原泰作文書のうち、1942年に北原が執筆した日録の史料翻刻を行うとともに、当該期の北原の行動と意識、1938年に執筆した「記録」との差異について考察した解説を執筆した。西尾泰広との共著。
22. 北原泰作文書(その1)昭和十三年「記録」	単	2009年9月	『部落問題研究』190号、公益社団法人部落問題研究所	北原泰作文書のうち、1938年に北原が執筆した日録の史料翻刻を行うとともに、記述内容の分析と北原の行動・意識について考察した解説を執筆した。
23. 戦後初期、大分県における地域支配構造民主化運動―宇佐郡宇佐町の事例を題材として	共	2008年3月	『日本史研究』547号、日本史研究会	日本史研究会近現代史部会・大阪歴史学会近代史部会・大阪歴史化学協議会帝国主義研究部会による合同発表会の要旨。敗戦直後の大分県宇佐町において展開された青年団体による民主化運動の特質と経過を概観した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 兵庫県の地域形成に関する一試論―近現代の明石地域を事例に―	単	2024年10月	第74回 2024年度地方史研究協議会大会、地方史研究協議会、於甲南大学	明治～高度成長期の明石地域（現明石市域）における交通整備、産業進出、都市構想等の展開と変遷の分析を通して、兵庫県瀬戸内（播磨灘）臨海部の地域形成に関する論点の提供を試みた。
2. 戦時期大都市近郊地域における軍需産業の進出とその特質	単	2023年10月	第61回部落問題研究者全国集会歴史Ⅱ分科会、公益社団法人部落問題研究所、於職員会館かもがわ	兵庫県明石市を対象として、戦時期における軍需産業の進出とそれが地域に与えた影響を実証した。
3. 一九五〇年代における市町村合併の展開―兵庫県明石市とその周辺自治体を事例に―	単	2016年6月	2016年度大阪歴史学会大会近代部会、大阪歴史学会、於関西学院大学	1950年代の市町村合併について、戦前からの経緯、地域固有の事情、そして住民の動向などを軸に据えて、その展開過程と特質を解明した。
4. 戦後部落解放運動史像の再検討	単	2010年10月	第48回全国部落問題研究者集会歴史Ⅱ分科会、公益社団法人部落問題研究所、於同志社女子大学	敗戦～1950年代の部落解放運動における他団体との共同闘争＝共闘の形成過程と理論的特質を、中央・地方のそれぞれから分析した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 翻刻 渡部寛一郎日記5・1（大正六年十二月～七年六月）	共	2024年3月	『山陰研究』16号、島根大学法文学部山陰研究セン	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか6名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
2. 翻刻 渡部寛一郎日記4下（大正五年）	共	2022年12月	ター『山陰研究』15号、島根大学法文学部山陰研究センター	群のうち、1917年の日記の解読補助および校正を行った。 要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか6名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1916年の日記の解読補助および校正を行った。
3. 翻刻 渡部寛一郎日記4上（大正五年）	共	2021年12月	ター『山陰研究』14号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか6名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1916年の日記の解読補助および校正を行った。
4. 翻刻 渡部寛一郎日記3（明治三十九年）	共	2020年12月	ター『山陰研究』13号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか6名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1906年の日記の解読補助および校正を行った。
5. 鬼嶋淳『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治—』を読む	単	2020年2月	東京歴史科学研究会・部落問題研究所合同書評会、於一橋大学	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
6. 翻刻 渡部寛一郎日記2続（明治三十一年・三十二年）	共	2019年12月	ター『山陰研究』12号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか5名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1898・99年の日記の解読補助および校正を行った。
7. 翻刻 渡部寛一郎日記2（明治三十一年・三十二年）	共	2018年12月	ター『山陰研究』11号、島根大学法文学部山陰研究センター	、要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか5名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1898・99年の日記の解読補助および校正を行った。
8. 翻刻 渡部寛一郎日記（明治三十年二月から四月まで）	共	2017年12月	ター『山陰研究』10号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか5名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、1897年の日記の解読補助および校正を行った。
9. 翻刻 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（続）	共	2016年12月	ター『山陰研究』9号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか5名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、若槻礼次郎から渡部に宛てた書簡の解読補助および校正を行った。
10. 翻刻 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡	共	2015年12月	ター『山陰研究』8号、島根大学法文学部山陰研究センター	要木純一・竹永三男・内田融・大國由美子・居石由樹子・小林奈緒子・本井優太郎・ほか4名 松江出身の政治家・漢詩人・教育者である渡部寛一郎が遺した文書群のうち、若槻礼次郎から渡部に宛てた書簡の解読補助および校正を行った。
11. 初代松江市長・福岡世徳文書（十・完）	共	2014年12月	ター『山陰研究』7号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・内田融・居石由樹子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第10冊）の解読補助および校正を行った。
12. 初代松江市長・福岡世徳文書（九）	共	2013年12月	ター『山陰研究』6号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・内田融・居石由樹子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第9冊）の解読補助および校正を行った。
13. 書評 木村哲也『駐在保健婦の時代—1942-1997—』	単	2013年9月	2013年度近現代史サマーセミナー、日本史研究会近現代史部会・大阪歴史学会近代史部会・大阪歴史科学協議会帝国主義研究会、於アジアの風宿泊研修センター（岡山市）	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
14. 戦後地域社会における米軍基地をめぐる	単	2013年8月	2013年度現代史サマーセミナー、現	伊丹航空基地の周辺地域における基地問題の生成・展開過程について、高度成長期までを射程にふくめた研究報告を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
諸問題			代史サマーセミナー実行委員会、於熱海ホテル（熱海市）	
15. 戦後地域社会における基地問題の形成と展開―伊丹航空基地とその周辺地域を事例に―	単	2013年4月	日本史研究会近現代史部会、於機関紙会館（京都市）	伊丹航空基地の周辺地域における基地問題の生成・展開過程について、1950年代半ば頃までを主対象とする研究報告を行った。
16. 初代松江市長・福岡世徳文書（八）	共	2012年12月	『山陰研究』5号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・内田融・居石由樹子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第8冊）の解説補助および校正を行った。
17. 初代松江市長・福岡世徳文書（七）	共	2011年12月	『山陰研究』4号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第7冊）の解説補助および校正を行った。
18. 書評 三輪泰史『日本労働運動史序説―紡績労働者の人間関係と社会意識―』	単	2011年12月	2011年度近現代史サマーセミナー、日本史研究会近現代史部会・大阪歴史学会近代史部会・大阪歴史科学協議会帝国主義研究会、於大阪府立労働センター（エルおおさか）	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。なお本発表は当初9月に実施予定であったが、天候不良により延期となっていたものである。
19. 初代松江市長・福岡世徳文書（六）	共	2010年12月	『山陰研究』3号、島根大学法文学部山陰研究センター	、竹永光男・大國由美子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第5・6冊）の解説補助および校正を行った。
20. 書評 大門正克『小学館 日本の歴史十五戦争と戦後を生きる』	単	2010年10月	日本史研究会近現代史部会、於機関紙会館（京都市）	左記の著書について内容を紹介・解説するとともに、成果と問題点を指摘した。
21. 初代松江市長・福岡世徳文書（五）	共	2009年12月	『山陰研究』2号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第4冊の続き）の解説補助および校正を行った。
22. 戦後における地域変革と教育実践―島根県大原郡日登村、「日登教育」を素材として	単	2009年7月	三学会合同修士論文報告会、日本史研究会近現代史部会・大阪歴史学会近代史部会・大阪歴史科学協議会帝国主義研究会部会、於機関紙会館（京都市）	敗戦～1950年代の農山村における教育実践の分析を通じて、地域の社会関係・生活様式の変容過程を解明した。
23. 初代松江市長・福岡世徳文書（四）	共	2008年12月	『山陰研究』1号、島根大学法文学部山陰研究センター	竹永光男・大國由美子・小林奈緒子・沼本龍・本井優太郎 初代松江市長・福岡世徳が遺した文書群のうち「公務手帳」（全12冊のうち第4冊）の解説補助および校正を行った。
24. 戦後初期、大分県における地域支配構造民主化運動―宇佐郡宇佐町を事例として―	単	2007年7月	三学会合同卒業論文報告会、日本史研究会近現代史部会・大阪歴史学会近代史部会・大阪歴史科学協議会帝国主義研究会部会、於機関紙会館（京都市）	大分県宇佐郡宇佐町を対象に、敗戦直後の青年層による農村社会運動に関する研究報告を行った。
6. 研究費の取得状況				
1. 戦時・戦後における	単	2022年4月～	科学研究費助成事	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
大都市近郊地域の歴史的変容と「生活課題」—兵庫県明石市の分析	共	現在	業／若手研究／課題番号：22K13216／研究代表者：本井優太郎	
2. 奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究—地域構造分析・比較研究を通して		2021年4月～現在	科学研究費助成事業／基盤研究(B)／課題番号：23K20499／研究代表者：竹永三男	
3. 近代山陰地域の漢詩と官僚出身政治家の文化教養環境—中国文学と日本史学の学際的研究	共	2016年4月～2019年3月	科学研究費助成事業／基盤研究(C)／課題番号：16K02366／研究代表者：要木純一	
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2024年9月～現在		高知県史編さん現代部会 専門委員		
2. 2024年4月～現在		明石市史編さん委員会 専門委員（地域部会・現代部会）		
3. 2015年6月～2016年6月		大阪歴史学会 企画委員		
4. 2015年4月～現在		新修摂津市史 執筆委員		
5. 2012年12月～現在		同時代史学会 関西研究会委員		
6. 2012年6月～2016年6月		大阪歴史学会 近代史部会担当委員		
7. 2011年9月～2012年3月		大阪狭山市史 執筆委員		
8. 2010年10月～2012年10月		日本史研究会 近現代史部会研究委員		
9. 2009年6月～2011年6月		大阪歴史学会 企画委員		